

● News Letter ●

コロナ禍のステイホーム・テレワークでエサもたっぷり！
巣ごもり通販生活で増えるダンボールは、ゴキブリの楽園に！

1匹のメスが一生の間に産む卵は500匹分？
ゴキブリの活動最盛期の夏がやってきた
夏こそ定期的&徹底的にゴキブリ駆除を！



ゴキブリ
ムエンダー
MUENDER

KINCHO

2021年6月



この Newsletter のサマリー

コロナ禍の新生活習慣「ステイホーム」が、ゴキブリの繁殖に貢献！？

- ステイホームが増え、室温を「人にとって快適な温度」に保つ時間が増えました。実はそれはゴキブリにも快適な温度です。さらに、ステイホームにより「水」や「豊富なエサ」もそろいやすく、これまで以上にゴキブリには過ごしやすい環境が生まれていると考えられます。
- 特に、ステイホームの通販生活で増える傾向にあるダンボールは、ゴキブリにとって最高の棲み家です。
 - 理由① ⇨ ダンボールは保温・調湿機能が強く快適
 - 理由② ⇨ ゴキブリが好む適度な隙間
 - 理由③ ⇨ 卵を産むのに最適なサイズの穴

これが鉄則「やってはいけない！ありがちNG生活習慣」対策

- 鉄則 ① 不用なダンボールは、こまめに処理！
- 鉄則 ② 生ごみはためない！浴室・トイレ収納は除湿剤で乾燥を！
- 鉄則 ③ 観葉植物やプランターは、時々チェック！
- 鉄則 ④ 子どもやペットの食べこぼしに注意！



活動最盛期の夏場の駆除を怠ると大量増殖！

- ゴキブリは20℃以上で活動を始めます。春になると孵化する幼虫も増え、夏場に向け、成長しやすい環境が整うにしたがって成虫となり、産卵期を迎えるゴキブリの数も急増します。
- 1匹のメスが、一生の間に産む卵の数は幼虫500匹分程度とも推測されています。
- 夏場のゴキブリを放置しておく、と、どんどん産卵・孵化して大量増殖。冬でも遭遇する事態が起きてまいります。さらには、翌春、ゴキブリの「ベビーラッシュ」という事態も起きかねません。

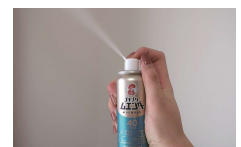


夏場の駆除は、「お部屋の空間に噴霧する方式」で「2週間に1回程度」が目安

- 活動最盛期の夏場の駆除は、「お部屋の空間に噴霧する方式」で「2週間に1回程度」を目安に駆除を！
- 一部屋の駆除だけでは隣のお部屋に引っ越しされるだけ！駆除する際は全室一斉に！
- ゴキブリは夜行性なので、夜の駆除がより効果的！

定期的な駆除のためにも、「安全で手間いらず」な駆除剤を選んで！

- KINCHOゴキブリムエンダーは…
 - ⇨ 防除用医薬部外品で、部屋の中に居ながら空間噴霧で家中まるごとゴキブリを駆除できる唯一の製剤。
 - ⇨ お部屋の大きさに合わせて空間に数回プッシュするだけで、薬剤がお部屋のスミズミまで拡散。ゴキブリが潜むすき間や床面に速やかに沈降し、ゴキブリを効率的に駆除することができます。
 - ⇨ ヒトや犬・猫などの温血動物に安全性の高いピレスロイド系、なかでも環境中で速やかに消失する成分を選択。お部屋に処理した後も、薬剤が人の生活空間にいつまでも残留することなく、そのまま生活することができます。
 - ⇨ 面倒な事前準備は不要、処理後の掃除も必要ありません。



● 3人の「ゴキブリ博士」にお話をお聞きました ●



大日本除虫株式会社
千葉工場
工場長
神崎 務
KINCHOゴキブリメン
エンダーの「開発の父」。
千葉工場長就任前は、
中央研究所生物研究室
室長として製品を着想、
薬剤開発も指揮。



大日本除虫株式会社
中央研究所
生物研究室 室長
引土 知幸
さまざまな害虫に対す
る薬剤の効果を検証す
ると同時に、人体への
影響の分析も担当。研
究所内では、多数の虫
も飼育。



大日本除虫株式会社
中央研究所
エアゾール研究室 室長
小林 洋子
薬剤師。害虫に対する薬
剤の開発を担当KINCHO
ゴキブリメンエンダーに
はなくてはならない薬剤散
布機能「エアゾール」の
開発責任者。

■ コロナ禍のステイホーム&テレワークでゴキブリ増？ 冬でも遭遇してしまう恐れも！

● 「人にとって快適な温度」「水」「豊富なエサ」がそろう環境は、ゴキブリにとっては「楽園」

「コロナ禍でステイホームやテレワークが増え、それに伴ってゴキブリも増えている」というニュースをよく耳にします。果たしてその真偽はいかに？
厳密には、「増えている」かどうかは定かではありません。しかし、ゴキブリが活動しやすい環境が1年中整ったうえに、家にいる時間が増えたことで、「これまで以上にゴキブリに遭遇しやすくなった」とは、間違いありません。

一般的に家で過ごす際には、冬でも夏でも「人にとって快適な温度」に室温を保ちます。実はこの温度は、ゴキブリにとっても過ごしやすい環境なのです。

変温動物のゴキブリは、気温が20℃以下になると活動が鈍ります。さらに低温になれば、卵・幼虫・成虫いずれの状態であっても休眠して越冬、もしくは死んでしまいます。しかし、気密性が高まり、暖房・加湿機能が整った現代の住環境では、冬でも極端な低温・乾燥状態になることはあまりありません。そのため、ゴキブリは冬でも活動し続けることができるのです。

また、在宅時間が長ければ、普段以上に水を使い、家で食事や間食の回数も増えます。食事をすれば生ごみや食べ残しが増え、気づかないうちに食べこぼしもしてしまいます。

ステイホームが増えると、ゴキブリにとって最高の条件となる「適度な室温」「水」「豊富なエサ」の三拍子がそろいやすくなり、これまで以上に快適な「楽園」が生まれていると考えられます。



● 活動最盛期の夏場に放置すると、夏の間にも大量に増殖し、冬でもゴキブリに遭遇！

ゴキブリが盛んに活動を始めるのは、気温が20℃以上に上がってくる4月下旬以降です（4ページ参照）。家でよく見かけるクロゴキブリの場合、幼虫期間を経て6月ごろから成虫になり始めて、成虫になったメスは交尾後産卵します。卵は長さ12^{mm}、幅5^{mm}、厚さ3^{mm}程度の大きさの「卵鞘（らんしょう）」と呼ばれる堅いカプセル状の殻に覆われており、卵鞘の中には12～40個の卵が入っています。1匹のメスが一生の間に産卵する回数は20回程度にも及ぶといわれています。

夏場のゴキブリを野放しにしてしまうと、夏場の間にどんどん産卵・孵化し、大量に増殖する事態が起きてしまいかねません。

● さらに来年の春には、ゴキブリの「ベビーラッシュ」がやってくる…。その前にこまめな駆除を！

一般的に、外敵がない家の中という快適な生息環境に棲むゴキブリの寿命は、2～3年程度と考えられています。自然界（屋外）なら、冬場に気温が低下すれば、死んだり休眠したりして減少するはずのゴキブリも、快適な室内なら冬場でもさほど数を減らすことなく活動・産卵します。

となれば、心配になるのは翌年の春です。冬を越えた卵も、暖くなる時期には孵化し始めて大量のゴキブリが出現。ゴキブリにとっては、まさに「ベビーラッシュの春」到来です。

ゴキブリの駆除を始めるのに最適な時期は、ゴキブリの数が増える前＝「もともとゴキブリが少なく、卵から幼虫が孵化を始める前の3月上旬ごろ」です（4ページ参照）。しかし実際、春先にはゴキブリを見かける機会も少なく、危機感も持ちにくいために、なおざりにされがちです。活動が盛んになってくる夏場にゴキブリを見かけたら、それははいよいよ危険信号です。放置せずにこまめな駆除を心がけてください。

■ 知らないうちにゴキブリを呼ぶ、増やす！これが鉄則「やってはいけない！ありがちNG生活習慣」対策

鉄則 ① 不用なダンボールは、こまめに処理！

やってませんか？ありがちNG生活習慣

- 巣ごもり生活でケータリングやネット通販フル活用。気づけばお部屋中、ダンボールがいっぱい
- フリマアプリで出品！いろんなサイズのダンボール箱があるとベンリなのよね、ちょっととっておこ！とたんでお部屋の隅に片づける
- お部屋に置いておくと邪魔になるので、ダンボールはたたんでベランダに出してまーす！
- スーパーでの密を避け、お買い物は週に1度のまとめ買い！お店のダンボールに入れて車でラクラクお持ち帰り

ダンボールは、ゴキブリにとっては最高の棲み家です。その理由は、

1) ダンボールは保温・調湿機能が高く快適

⇒ ゴキブリにとって、低温は生命の危機につながります。また、ベランダなどに出しっぱなしにしておくと、雨にあたって湿気もたっぷりに。

2) ゴキブリが好む適度な隙間

⇒ ゴキブリは目がほとんど見えず、触角を頼りに動いています。触角に触れるものがない状態は、体の近くに何もなし＝外敵から丸見えで危険な状態を意味します。触角、背中、おなかなどが何かに触れることで隙間の大きさを感じ、その隙間以上に大きな外敵が入れない場にいることで安全を確保しています。食器棚や冷蔵庫の裏の隙間などに潜むのはそのため。ダンボールをばらして平積みにしていたりすれば、そこは安全で快適な棲み家になります。

3) 卵を産むのに最適なサイズの穴

ダンボールは、卵を産みつけるのに最適な場所。波型の穴は孵化した幼虫も安全に過ごすことができます。スーパーなどのダンボールを活用する際には、そうした危険も潜んでいることを認識して早めに処理してください。

鉄則 ② 生ごみはためない！浴室・トイレ収納は除湿剤で乾燥を！

やってませんか？ありがちNG生活習慣

- 生ごみ収集は週2回。ある程度たまるまでは、シンクの三角コーナーに入れっぱなしにしちゃうんですねえ…。
- ごみ収集日の前夜は、寝る前に生ごみをまとめてキッチンの片隅に袋ごとおいておくと、朝のごみ出しがラクチンです！

ゴキブリは夜行性です。夜に生ごみなどの「水気を含んだごみ」を放置することはNG！三角コーナーの生ごみは、小さな袋で口を堅く縛って、毎日処理してください。できればふきんなども洗った後はきちんと吊るして干すようにし、シンクの脇などに置きっぱなしにしないように心がけましょう。また、お風呂やトイレの水気が多い所は、空間の換気だけでなく、収納場所の中の除湿にも気を配ってください。

鉄則 ③ 観葉植物やプランターは、時々チェック！

やってませんか？ありがちNG生活習慣

- お部屋のなかにはインテリアグリーンがいっぱい！
- ベランダにはプチ菜園も！毎日の水やりでリラックス

ゴキブリは元来、森林性の生き物なので植物が大好き。土肌の乾燥を防ぐために敷く苔や、水皿のくぼみなどは湿度や隙間があり、格好の棲み家です。ゴキブリは集合フェロモンを出すため、いつの間にか大集合しているケースも。表面の置き苔や皿は時々移動してチェックしてください。

鉄則 ④ 子どもやペットの食べこぼしに注意！

やってませんか？ありがちNG生活習慣

- 子どもは食べこぼし、ペットも食べ散らかしちゃうんです
- ラグの裏には、髪の毛なども絡まったホコリやごみが…

食べこぼしや髪の毛などのホコリやごみは、お部屋の四隅やラグの下などにたまりがち。ゴキブリは髪の毛も食べるため、格好の餌場。お菓子の袋などは、開け口全体を挟む長めのクリップなどでしっかり密閉！

■ ゴキブリの活動最盛期は高温多湿な夏。1匹のメスが一生の間に産む卵は500匹？

● 快適な温度、水とエサさえそろえば、強い繁殖力でどこでも出現する！

ゴキブリは20℃以下で活動が低下する変温性の昆虫で、冬場になれば死ぬか休眠します。つまり、本来の活動の最盛期は夏なのですが、暖房の普及した現代、冬場でも休眠することなく人間の生活空間に出現しています。天井裏、床下、排水溝、新聞紙やダンボールの隙間、植木鉢や流し台の下などの高温多湿な環境を好み、「集合フェロモン」を出すことで「巣」をつくり、群れることで安全を守っています。温度、水とエサさえそろえば、1匹のメスから生まれる幼虫は500匹程度ともいわれる旺盛な繁殖力で、根絶するのは難しいとされています。

■ ゴキブリの種類と生態

種類	チャバネゴキブリ 12～15mm	クロゴキブリ 27～33mm	ヤマトゴキブリ 25～35mm	ワモンゴキブリ 30～45mm
生態	全国に広く分布。寒さに弱いので、暖房設備の整ったオフィス・ホテル・飲食店・病院などに多い。	全国に広く分布。木造の日本家屋・コンクリート造りのアパートなどの住居に多い。	東北から近畿にかけて分布。農家や木造の日本家屋に多く、コンクリート造りの住居やビルには少ない。	熱帯種のため南日本に多いが、暖房設備の整った都市域に拡がりつつある。
卵期間	20～28日	30～47日	27～35日	35～45日
幼虫期間	2～3ヵ月	約3～12ヵ月	約3～12ヵ月	約4～12ヵ月
成虫期間	3～4ヵ月	4～5ヵ月	3～6ヵ月	3～20ヵ月



触角▶ 暗闇で活動する時の頼り目は目よりも触角。食べ物を探したり、ニオイを感知しています。食べ物がある所まで2分でたどりつけたゴキブリの触角を切っただけで、2時間もかかったという例もあります。ゴキブリが触角をなめているのを見ることがありますが、これは触角の汚れを落としている所です。

尾毛▶ 振動を感じる器官があり、人などが動けばその器官が反応し、すばやく身をかかわして疾走します。壁の角などを伝って上に登るのはそのため。いよいよ行き場を失うと、最後の手段として「滑空」します。

口（大あご）▶ 丈夫で、噛むのと同時になめることができます。

足・爪▶ 鋭い爪と足先から出すベタベタの液で、壁や天井にもビタリ。

体▶ 扁平で、狭いスキマに潜り込むことができます。体長は27～33mm（クロゴキブリ）

■ ゴキブリの一生（例）



もともと熱帯の森林地帯に棲む昆虫。 もとの生態を知れば、ゴキブリの好む場所はイメージできます

もともとゴキブリは、熱帯の森林地帯に生息する昆虫です。高温で湿っぽい落ち葉の隙間などに、群れて生息しています。何でも食べる大食漢で、その語源は、その首、碗「御器（ごき）」もかぶる（食べる）ことから、御器かぶり→ごきぶりとなったとする説もあります。こうしたもとの生態や特性を知れば、ゴキブリが日本の家屋のなかで、どんな場所を好んで棲みつき、どんな行動をしているのかイメージしやすくなります。

■ 気持ちわるいだけじゃない！ゴキブリがもたらす被害は想像以上に甚大！

衛生面の被害

● さまざまな病原体を家中に拡散する恐れがある

ゴキブリが屋内に侵入してくる経路は、湿った排水口や流し台のシンクなどさまざま。病原体が体に付着している可能性があります。実際に家に棲むゴキブリの体に付着している病原体を調べると、右の表の病原体が検出されたとの報告もあります。これらの病原体を身にまといキッチンやリビングなど歩き回れば、家中に拡散してしまう可能性があります。

● 「ゴキブリ臭」と呼ばれる悪臭が発生

ゴキブリは、悪臭の原因にもなります。ゴキブリはその習性として、仲間を集めるために「集合フェロモン」を出しており、多くが集まると「ゴキブリ臭」が発生します。水や洗剤で拭き取ることで、ニオイを和らげることができます。

■ ゴキブリが運ぶとされる病原体

サルモネラ菌	食中毒
赤痢菌	赤痢
チフス菌	腸チフス
大腸菌	尿路感染症・急性胃腸炎
ポリオウイルス	小児麻痺

健康面の被害

● 気管支喘息、アレルギー性鼻炎などの原因に

ゴキブリのフンや死骸はアレルゲンの一種で、人の体内に取り込まれ、気管支喘息やアレルギー性鼻炎などを引き起こすことが知られています。



経済面の被害

● コンセントやケーブルといった配線をかじり、電化製品の故障も起きる

温かく狭い場所を好むために、冷蔵庫などの電化製品の裏側もゴキブリには格好の棲み家になります。そこにゴキブリが大量に集結すれば、配線ケーブルなどもかじるために電化製品の故障やショートの原因になります。

● 美術品や古文書などの文化・骨董価値のあるものにも被害が発生

ゴキブリは紙もかじります。美術品や古文書など、文化的・骨董的価値のあるものに被害が発生することもあります。また、押し入れや収納に保存している服なども被害を受けることがあります。

害虫には、「衛生害虫」と「不快害虫」がある

ひと口に「害虫」と言いますが、被害の様式によって「衛生害虫」と「不快害虫」などに分けられます。

衛生害虫は、病原体を運んで健康被害を発生させるか、その恐れのあるもので、蚊やハエなどがその代表です。たとえば病原体を持った蚊が、人の血を吸う際にマalariaなどの感染症を媒介します。

一方の不快害虫は、文字通り、見ただけで人を不快にさせる害虫で、クモやゲジゲジなどのほか、ハチやムカデのように人を攻撃するものもこれに分類されます。しかし害虫とは言いながらも、それは人間の立場から見た恣意的な分類でもあります。たとえばクモは見た目は不気味ですが、一部を除いて、とくに人体に悪影響を及ぼすわけではありません。むしろ、他の害虫を食べる「益虫」としての面も持っています。

ではゴキブリは？ といえば、「衛生害虫」として区分されます。しかし最近では、その容姿や行動から忌み嫌われ、「不快害虫」のような側面もあるかもしれません。病原体が体に付着している恐れがあるため、健康被害を起こす可能性は否定できません。しかし、みなさんが抱くゴキブリの「害」は、見た瞬間にギョッとさせるあの圧倒的な「心理的被害」が一番大きな「害」とも言えるでしょう。



■ 駆除する際に知っておきたい！ゴキブリ退治の常識・非常識

● 活動の最盛期となる夏場こそ、定期的&徹底的に

ゴキブリの駆除を始めるのに最適な時期は、休眠しているゴキブリが活動を始める頃＝気温が20℃に満たない時期で、全国的に見てもおおむね3月上旬頃です。しかし、春先は孵化した幼虫はまだ小さく見かけることも少ないため、ついつい駆除も忘れがちです。

成虫になるゴキブリが増え、活動も活発になる夏場こそ、放置することなく徹底的に駆除することが欠かせません。その駆除法は、「お部屋の空間に噴霧する方式」で「定期的に」がポイント。頻度は、産卵・孵化を繰り返すゴキブリの生態・習性を考えれば、2週間に1回程度です。

● 一部屋だけでは隣のお部屋に引越されるだけ！駆除の際は全室一斉に！

ゴキブリを見かけたお部屋だけ処理すると、ゴキブリは隣のお部屋へ逃げ出します。徹底的に駆除したいなら、「全部屋を一斉に駆除する」ことが必要です。逃げ場をなくせば、確実な駆除につながります。

☞ **KINCHOゴキブリムエンダー（40プッシュ）**の効力は、1本でくん煙剤10個分に相当し、複数のお部屋をまとめて駆除する際のコストパフォーマンスも優れています。

● ゴキブリは夜行性なので、夜の駆除がより効果的！

ゴキブリの駆除は、「ゴキブリがどれだけ薬剤に接触するか」にかかっており、「活動している時間」に薬剤散布すれば薬剤接触量は増えます。夜行性のゴキブリの駆除は夜に行う方がより効果的です。

☞ **KINCHOゴキブリムエンダー**なら、就寝前にプッシュしておけば寝ている間に駆除ができます。もちろん、安全性に問題はありません。

昔と違い、住宅環境が改善された現在は、冬の北海道でもゴキブリが見られることがあります。
生息する地域も次第に北上しており、これまでは九州や四国南部に限られていたワモンゴキブリなどが、暖房が整った都市部でも見られるようになっていきます。
また、マンションの高層階にはゴキブリはいないというのも間違いです！卵が産みつけられたダンボールを知らず知らずのうちにお部屋に持ち込んでいるかもしれませんし、人や荷物と一緒にエレベーターに乗って登ってくることも考えられます。



■ 2週間に1回の定期的な駆除のために「安全で手間いらず」な駆除剤選びがポイント！

● 何よりもまず、人に安全であること

お部屋まるごとゴキブリ駆除する剤型として、一般的に知られているのは「くん煙剤」と呼ばれる、白い煙（微細な粒子状の薬剤）をお部屋中に一気に拡散するものです。一方で課題もあり、くん煙剤は使用時に室内の薬剤濃度が高くなり、人が暴露されると健康被害を及ぼす可能性があるため、使用時は退室する必要があるなど使用方法を細かく定めた「医薬品」に該当します。

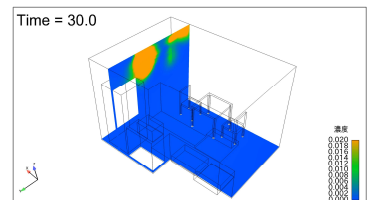
☞ **KINCHOゴキブリムエンダー**は、お部屋の大きさに合わせて空間に数回プッシュするだけで薬剤がお部屋のすみずみまで拡散。ゴキブリが潜むすき間や床面に速やかに沈降し、ゴキブリを効率的に駆除できます。薬剤には、ヒトや犬・猫などの温血動物に安全性の高いピレスロイド系、なかでも環境中で速やかに消失する成分を選択。薬剤が人の生活空間にいつまでも残留することなく、そのまま生活でき、子どもやペットがいても安心して使用できる製剤として、「医薬部外品」の承認を得ています。ゴキブリ駆除スプレーには、ゴキブリが潜むすき間に処理して、効果が約1ヵ月持続する製品がありますが、**KINCHOゴキブリムエンダー**は、空間噴霧でお部屋まるごとゴキブリ駆除する製品であり、「薬剤が残留しない」ことが安心・安全のポイントです。

● 定期的に行うためにも、駆除前・駆除後が手間いらずの駆除剤を

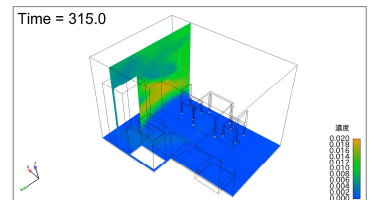
もう一つ、くん煙剤の大きな課題は、使用前の準備と使用後の片づけに手間がかかることです。火災報知器やお部屋中の食器や電化機器類などにカバーし、使用後には掃除をしなければならないといった手間も発生するため、定期的に駆除しようにも二の足を踏みがちです。

☞ **KINCHOゴキブリムエンダー**は、お部屋の大きさに合わせて空間に数回プッシュするだけ。面倒な事前準備は不要、処理後の掃除も必要ありません。

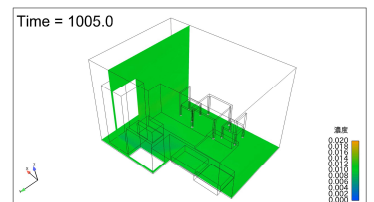
■ KINCHOゴキブリムエンダーの薬剤拡散シミュレーション



噴射直後▶6畳のダイニングで実験。青色の部分は薬剤がないことを示す



噴射5分後▶冷蔵庫や棚の裏にも薬剤がまわり始める



噴射15～20分後▶電化製品や家具の裏まで、お部屋全体に薬剤が沈降



約20分後にはゴキブリの潜み場所に薬剤が届く「エアゾール」技術
KINCHOゴキブリムエンダーなら、ゴキブリが潜む家具のすき間や床面に薬剤を効率よく届けることができます。KINCHOゴキブリムエンダーは、噴射される薬剤粒子の大きさや重さ、角度などを繰り返し検証し、薬剤の拡散を最適化しています。右の画像はそのシミュレーションです。約20分後には、ゴキブリが潜みそうな狭いすき間も含め床一面に薬剤が沈降していることがわかります！

■ KINCHOゴキブリムエンダー 製品概要



防除用医薬部外品で、お部屋の中に居ながら空間噴霧でまるごとゴキブリを駆除できる唯一の製剤

- ゴキブリを一斉に駆除できるくん煙剤の効き目を、煙を使わずに実現した“次世代型ゴキブリ駆除剤”
- くん煙剤の面倒な事前準備や後片づけが必要なく、お部屋の広さにあわせて空間にプッシュするだけで、簡単・手軽に家中まるごとゴキブリ駆除
- 独自のエアゾール設計で有効成分がゴキブリの潜む場所に素早く届き、ゴキブリを効率的に駆除します。
- 薬剤には、環境中で速やかに消失する成分を使用し、人の生活空間にいつまでも残留しないため安心安全です。

使用方法



従来のくん煙剤との違い

使用前（準備）

<p>従来のくん煙剤</p> <p>パソコン、テレビなどの家電、火災報知器や食器類にカバー</p> <p>ペットや観葉植物は出しておく</p>	<p>KINCHO ゴキブリムエンダー</p> <p>面倒な事前準備は必要ありません！</p> <p>お部屋を閉め切るだけ</p>
--	--

使用中

<p>各部屋同時に設置して、水や火を使って使用する</p> <p>使用中は外出しなければならぬ</p>	<p>広さに合わせた回数を空間にプッシュするだけ</p> <p>複数のお部屋での使用もラクラク！</p> <p>プッシュ後、お部屋の中にも大丈夫！</p>
---	---

使用后

<p>カバーの撤去、お部屋の換気、床のお掃除など…</p> <p>後片付けがたっさん！</p>	<p>お掃除などの後片付け不要！</p>
---	----------------------

使用量



KINCHOゴキブリムエンダー = くん煙剤10個 40プッシュ1本

開発秘話 ■
着想から15年超！
安全と効果を両立させた「医薬部外品」の画期的駆除剤
金鳥の製品開発力が凝縮



KINCHOゴキブリムエンダーの企画が立ち上がったのは、かれこれ15年以上前になります。開発テーマは、家中のゴキブリをまるごと駆除してもらうために①何よりも人に安全であること ②手間がかからないことでした。使用にさまざまな制限があるくん煙剤ではなく、いつでも思い立った時に簡単に使用できるゴキブリ駆除剤を目指したのです。

人に安全で虫によく効く成分の選定、エアゾール式でお部屋に薬剤をすばやくいきわたらせるための最適な製剤設計、噴射機構の開発など、地道な研究の結果、高い効力と優れた安全性を兼ね備えつつ、お部屋にいなから空間まるごと駆除できる画期的なゴキブリ駆除剤が開発できました。また、従来のゴキブリ駆除剤と違い、薬剤がいつまでも残留しない点も安全性の面で優れた特長です。

しかしながら、製品の設計が固まって厚労省に「医薬部外品」として申請したものの、こうしたアプローチのゴキブリ駆除剤には前例がなく、まったくくん煙剤のイメージも強いせいも、安全性の点から何度も問合せを受け、あらゆる検証を繰り返す作業が重なりました。最終的に「医薬部外品」の承認を得られたのは2019年です。実に申請から約10年の年月を要したことになります。

KINCHOの製品づくりの最大の特長は、何よりも安全性を重視すること。そして最大効果を得るために虫の生態や習性に着目し、そこを起点にして薬剤開発や駆除方法を研究開発、製品化していく点にあります。このKINCHOゴキブリムエンダーは、私たちの製品づくりへの情熱とプライドを示すことができた製品だと思っています。